

## 電子出版『世界史セミナー14年間の軌跡（仮）』に関する懇談会

20220802 海外事情研究所長 吉田ゆり子

### 1. 懇談会の趣旨

海外事情研究所では、2009年から今年度まで『世界史の最前線』（通称「世界史セミナー」）を、14年間毎年夏季に実施をしてきました。コロナの感染対策のため、2020・21・22年度と、全面オンラインでの開催となりましたが、14年目の今年に、これまでの企画を振り返り、その記録を整理して公開するとともに、15年目の2023年度からの企画の改善に資することができるように、参加者のみなさまからご意見、ご要望をうかがいたく思います。

本日は、(1)これまでの蓄積をどのように公開・活用することを望まれるか、(2)今後の世界史セミナーに望まれること、(3)その他、自由な形で忌憚のないご意見をうかがいたく、お願い申し上げます。

### 2. 「世界史セミナー」立ち上げの経緯

2009年に、ベトナム思想史研究者である同僚の今井昭夫先生から「世界史の最前線」と銘打って、高校世界史教員の方々に、リカレント教育の意味を込めて、本学の世界史・日本史を専門とする教員が、学界の最新の研究成果を講義するというアイデアをいただいた。それを受けて作成した企画案の中から、「趣旨」と「効果」を抜粋すると、[別紙1]のとおりです。

☞課題と考えていたのは、集客することができるか。

営利目的ではない社会貢献活動に、教員の協力が得られるか。

それぞれの講義を、出版（リブレット）・販売することができないか。

### 3. 14年間の軌跡

[別紙2] 毎年の記録

### 4. 成果と課題

- 成果
- ・東京外国語大学は言語を教えるだけの大学ではなく、他地域を対象とする専門家、とくに歴史学の専門教員が多く所属し、教育を行っていることを、高校に認知していただくことにつながった。
  - ・高大連携、大学の教員も高校教育の現状を現場で歴史教育に従事される教員から直接学ぶことができた。
  - ・高校の現場で教育に従事される教員の方に、講義の内容が刺激となった。
  - ・高校教員同士の交流の場を提供することができた。

- 課題
- ・セミナーに参加できなかった高校教員にも、講義の内容を共有してもらうために、成果を公開することができていない。
  - ・一方的な講義に終わらず、高大教員、高校教員同士の交流の場とすることが必要。
  - ・新科目「歴史総合」に活かすことを念頭においた史料とその解釈等の提示。

[別紙1]

海外事情研究所主催

## 「東京外国語大学夏期世界史セミナー―世界史の最前線―」企画書

2009.4.25

### [趣旨]

高校の英語教師、予備校の世界史講師を対象として、世界史研究の最前線を伝え、本学の教育・研究の知的リソースを示す。これによって、本学に進学した学生が、言語だけでなく、広く世界の歴史研究をおこなうことができるという教育の実態を広報することにつながると考える。

### [効果]

- ・海外事情研の教育・研究の知的蓄積を社会に還元する（社会貢献）。
- ・本学が一般的に社会で持たれているイメージは依然として単なる語学校としてのみのイメージが根強いいため、本学の多様な教育・研究の実態を広報する（大学広報）。
- ・受験生の大学選択に大きな影響力をもつ高校・予備校の先生方に本学の歴史研究・地域研究を知っていただき、本セミナーを受講された高校・予備校の先生方を通してそういった学問研究に関心のある受験生の獲得につなげる（入試対策）。
- ・高校においても大学においても世界史教育は必ずしも現在よい状況にあるとはいえない。もし本セミナーを通して高校教員と当方との間で協働関係が構築できるようなことがあれば、世界史教育において高大連携を図っていける可能性がある（歴史教育の高大連携）。

### [日程]

8月1日（土）・2日（日）または7月27日（月）28日（火） 2日間

合計14時間（担当講師7人）＋討論会

### [対象]

高校の教師、予備校の歴史担当講師

（中略）

### [成果の蓄積・公開]

大学出版会で、出版する。

『歴史科学と教育』（雑誌）と協力して、原稿を公表する。

### [課題]

都内・関東近県の高校や予備校に広報をし、集客の努力をする。

## 世界史セミナー記録

### 【第1回 (2009年)】

■日程：2009年7月27日（月曜日）～7月28日（火曜日）

■登壇者（所属は報告時）・報告題目

□1日目（7月27日、月曜日）

□講義1 「東京外国語大学で地域史をどう捉えているか」  
（鈴木茂）

□講義2 「近世ヨーロッパ国制の再検討ースペイン帝国の構造を中心に」  
（立石博高）

□講義3 『『東欧』史の描き方」  
（篠原琢）

□講義4 「ジェンダーからみる南アジア近代史：宗教・社会改革、ナショナリズム、国民国家の表象」  
（粟屋利江）

□2日目（7月28日、火曜日）

□講義5 「アメリカ革命による共和制から民主制へ」  
（金井光太郎）

□講義6 『『トルコ』を軸に世界史をみる」  
（新井政美）

□講義7 「中国開封の消えたユダヤ人」  
（佐藤公彦）

□講義8 「『ペルシア』か『イラン』か？『ペルシア人』か『イラン人』か？ー国民国家的歴史認識の『虚構』ー」  
（八尾師誠）

## **【第2回 (2010年)】**

■日程：2010年8月3日（火曜日）～8月4日（水曜日）

■登壇者（所属は報告時）・報告題目

□1日目（8月3日、火曜日）

□講義1 「狩猟採集社会は「文明」の呪縛から抜け出せるか」  
（小川英文）

□講義2 「沈黙の共同体—ハンド・サインから見る中世ヨーロッパ」  
（千葉敏之）

□講義3 「オスマン帝国史の描き方」  
（林佳世子）

□2日目（8月4日、水曜日）

□講義5 「太平洋世界の成立とブラジル」  
（鈴木茂）

□講義6 「代表的アメリカ人、フランクリン」  
（金井光太郎）

□講義7 「東欧の経験した第二次世界大戦」  
（篠原琢）

□講義8 「多民族国家ソ連の構成原理と現実」  
（鈴木義一）

### **【第3回 (2011年)】**

■日程：2011年8月3日（水曜日）～8月4日（木曜日）

■登壇者（所属は報告時）・報告題目

□1日目（8月3日、水曜日）

□講義1 「ネーション再考—国民国家と諸地域の相克をめぐって」  
（立石博高）

□講義2 「中国の商業と商人—明清時代における徽州商人の活動を中心として」  
（臼井佐知子）

□講義3 「ラテンアメリカにおける先住民の復権」  
（受田宏之）

□講義4 「幕末期日本外交と開港場」  
（吉田ゆり子）

□2日目（8月4日、木曜日）

□講義5 「教会刑罰から見る中世ヨーロッパ」  
（千葉敏之）

□講義6 「中東・北アフリカ地域における「インターネット革命」の真相—  
歴史的評価」  
（青山弘之）

□講義7 「《交易の時代》—大航海時代に先立つ15～17世紀のアジア」  
（青山亨）

□講義8 「ゲディスバーク演説による国民国家の記憶創造」  
（金井光太郎）

## 【第4回 (2012年)】

■日程：2012年8月3日（金曜日）～8月4日（土曜日）

■登壇者（所属は報告時）・報告題目

□1日目（8月3日、金曜日）

全国歴史教育研究協議会東京大会特別講演

「赤道の南には過ちはない：南大西洋と世界史」

（鈴木茂）

□講義1 「「アラブの春」のその後：絡み合う紛争をもたらす「民主化」の阻害」

（青山弘之）

□講義2 「近世日本における差別と地域社会」

（吉田ゆり子）

□2日目（8月4日、土曜日）

□講義3 「東南アジアを中心として見た7～9世紀の仏教世界」

（青山亨）

□講義4 「ホロコーストとマイノリティ：両大戦間中欧の世界史的変動」

（相馬保夫）

□講義5 フランス植民地における農村の変容と「文明化」～チャド共和国の事例から～」

（坂井真紀子）

## **【第5回 (2013年)】**

■日程：2013年7月30日（火曜日）～7月31日（水曜日）

■登壇者（所属は報告時）・報告題目

□1日目（7月30日、火曜日）

□講義1 「中世ヨーロッパにおける普遍公会議の機能」  
（千葉敏之）

□講義2 「戦間期日本における都市と農村—『生活』という視座から」  
（野本京子）

□講義3 「ベトナム人兵士目線から見たベトナム戦争—オーラル・ヒストリーの可能性を探る」  
（今井昭夫）

□2日目（7月31日、水曜日）

□講義4 「アメリカ・プリマス起源の神話構築」  
（金井光太郎）

□講義5 「まっすぐな国境線と地域間紛争～植民地統治にみる西アフリカの事例から～」  
（坂井真紀子）

□講義6 「「テロとの戦い」を通じた「民主化」か、「民主化」という名の「テロ」拡散か？：2000年以降のアラブ世界における政治変動を読み解く」  
（青山弘之）

## **【第6回 (2014年)】**

■日程：2014年7月29日（火曜日）～7月30日（水曜日）

■登壇者（所属は報告時）・報告題目

□1日目（7月29日、火曜日）

□講義1 「聖人崇敬から見た中世ヨーロッパ—大天使ミカエル崇敬を中心に」  
（千葉敏之）

□講義2 「風刺画から見る20世紀初頭の世界」  
（小松久男）

□講義3 「モンロー宣言と戦争を終わらせる戦争」  
（金井光太郎）

□講義4 「伝単からラオス内戦をみる」  
（菊池陽子）

□2日目（7月30日、水曜日）

□講義5 「南大西洋の世界：ロビンソン・クルーソーの航海再考」  
（鈴木茂）

□講義6 「「アラブの春」における希望と苦悩」  
（名誉教授・藤田進）

□講義7 「時代のなかの農業史研究—『農本主義』を手がかりに」  
（野本京子）

## 【第7回 (2015年)】

■日程：2015年7月27日（月曜日）～7月28日（火曜日）

■登壇者（所属は報告時）・報告題目

□1日目（7月27日、月曜日）

□「世界史科研調査結果報告」  
（鈴木茂）

□講義1 「なぜいま IS なのかー近現代イスラーム（思想）史から考えるー」  
（飯塚正人）

□講義2 「合衆国独立再考」  
（金井光太郎）

□大学紹介

□2日目（7月28日、火曜日）

□講義3 「「記憶の日」と「追憶の日」ー戦後イタリアにおける歴史認識と記憶の分断ー」  
（小田原琳）

□講義4 「日本近世社会とキリシタン」  
（吉田ゆり子）

□講義5 「イスラーム世界と日本を結んだ男ーアブデュルレシト・イブラヒム（1857-1944）」  
（小松久男）

□講義6 「歴史をいかに伝えるかーラオスにおける歴史認識の変化と記念日、記念碑ー」  
（菊池陽子）

## **【第8回 (2016年)】**

■日程：2016年7月28日（木曜日）～7月29日（金曜日）

■登壇者（所属は報告時）・報告題目

□1日目（7月28日、木曜日）

講演 「イスラームから見る近代史（仮）」  
（板垣雄三・東京大学名誉教授）

□講義1 「インド史叙述とダリト（元不可触民）の／による歴史」  
（栗屋利江）

□講義2 「中国と宗教 —キリスト教からみる中国社会」  
（倉田明子）

□講義3 「1812年の戦争:共和国と帝国の冷戦と熱戦」  
（金井光太郎）

□2日目（7月29日、金曜日）

「科研調査報告 高大連携による近現代史教育の可能性 —科研費プロジェクト3年間の経験から—」  
（鈴木茂）

□講義4 「日本の城と樹木 —人びとの暮らしと城との関係に注目して」  
（吉田ゆり子）

□講義5 「近世ポーランド・リトアニアの東部地域における宗派問題:殉教事件を例に」  
（福嶋千穂）

□講義6 「イスラーム世界の歴史とイスラーム」  
（飯塚正人）

## 【第9回 (2017年)】

■日程：2017年7月27日（木曜日）～7月28日（金曜日）

■登壇者（所属は報告時）・報告題目

□1日目（7月27日、木曜日）

□講義1 「スペイン帝国と複合君主政論」  
（立石博高）

□講義2 「歴史からみる香港、香港からみる"中国"」  
（倉田明子）

□講義3 「マジャパヒト：14世紀～15世紀東南アジア島嶼部の覇者の実像」  
（青山亨）

□講義4 「古き良きアメリカと消費者共和国」  
（金井光太郎）

□2日目（7月28日、金曜日）

科研調査報告 高大連携による近現代史教育の可能性—科研費プロジェクト  
報告—

（鈴木 茂）

□講義5 「シロンスク・スレスコ・シュレージエン（シレジア）  
Śląsk/Slezsko/Schlesien (Silesia)：境界地域の現代史」  
（篠原琢）

□講義6 「植民地／帝国の歴史と思想—近代日本思想とアジア」  
（米谷匡史）

□講義7 「「イスラーム国という現象」とは何だったのか？」  
（青山弘之）

## 【第10回（2018年）】

■日程：2018年7月25日（水曜日）～7月26日（木曜日）

■登壇者（所属は報告時）・報告題目

□1日目（7月25日、水曜日）

「科研費研究プロジェクト成果報告」

（鈴木茂）

□講義1 「啓蒙の世紀における軍事思想の展開—軍事改革を支える「知」のかたち（18世紀後半フランス）」

（芹生尚子）

□講義2 「「対テロ戦争」とイスラーム」

（黒木英充）

□講義3 「太平天国の「実像」と「評価」

（倉田明子）

□2日目（7月26日、木曜日）

□講義4 「東アジアの冷戦体制と戦争記憶の民主化」

（米谷匡史）

□講義5 「日本人のモンゴル抑留とウランバートル市建設」

（青木雅浩）

□講義6 「『ズデーテン・ドイツ人』の歴史像と祖国愛—消滅した景観から考える—」

（篠原琢）

□講義7 「ロシアの宗教と文化」

（巽由樹子）

## **【第 11 回 (2019 年)】**

■日程：2019 年 7 月 24 日（水曜日）～7 月 25 日（木曜日）

■登壇者（所属は報告時）・報告題目

□1 日目（7 月 24 日、水曜日）

□講義 1 「戦争は女性を国民化したか —イタリアにおける第一次世界大戦—」  
（小田原琳）

□講義 2 「近世京都の非人」  
（吉田ゆり子）

□講義 3 「中央アジア概念から世界史記述を考える」  
（木村暁）

□講義 4 「チェコスロヴァキア・ドイツ人の追放をめぐって —異論派の「歴史家論争」—」  
（篠原琢）

□2 日目（7 月 25 日、木曜日）

□講義 5 「教科書のなかのロシア」  
（巽由樹子）

□講義 6 「世界で 2 番目の社会主義国の実態 —20 世紀前半のモンゴル人の国家建設—」  
（青木雅浩）

□講義 「写真が語る 1940 年代初頭の仏領インドシナと日本 —朝日新聞社所蔵写真から—」  
（菊池陽子）

□講義 8 「「世界史未履修」から 10 年後の高校世界史教育と地歴科目再編」  
（鈴木茂）

## 【第12回（2020年）】

■日程：2020年7月29日（水曜日）～7月30日（木曜日）

■登壇者（所属は報告時）・報告題目

□1日目（7月29日、水曜日）

□講義1 「カメルーン英語圏の帰属をめぐる紛争の歴史」  
（坂井真紀子）

□講義2 「『和解』をひらく—オーストラリア先住民と日本人」  
（山内由理子）

□講義3 「ゾウの涙—ダーウィンと生体解剖論争」  
（伊東剛史）

□講義4 「1187年の世界情勢と〈十字軍〉の再定位」  
（千葉敏之）

□2日目（7月30日、木曜日）

□講義5 「歴史はトランプ米政権のシリア政策をどう評価するか」  
（青山弘之）

□講義6 「異宗派障壁論を超えて—中央アジア近代史の地平から」  
（木村暁）

□講義7 「ナショナリズムをどのように記述するか—ハプスブルク帝国史を例として」  
（篠原琢）

□講義8 「新教育課程と大学入試—ラテンアメリカ史の視点から考える」  
（鈴木茂）

## **【第13回（2021年）】**

■日程：2021年8月2日（月曜日）～8月3日（火曜日）

■登壇者（所属は報告時）・報告題目

□1日目（8月2日、月曜日）

□講義1 「第二次世界大戦・イタリアの戦後処理と歴史認識」  
（小田原琳）

□講義2 「中世ヨーロッパにおける土地制度を再考する」  
（千葉敏之）

□講義3 「「東ヨーロッパ」再考」  
（篠原琢）

□講義4 「歴史学における動物的転回」  
（伊東剛史）

□2日目（8月3日、火曜日）

□講義5 「ロシア革命とモンゴル」  
（青木雅浩）

□講義6 「歴史画の読み方」  
（久米順子）

□講義7 「中央アジアのイスラームと聖者信仰」  
（木村暁）

□講義8 「高大連携による歴史教育の課題と大学入試—「歴史総合」を手がかりに—」  
（鈴木茂）

## 【第14回（2022年）】

■日程：2022年8月2日（火）～8月3日（水）（オンライン開催）

■登壇者（所属は報告時）・報告題目

□1日目（8月2日、火曜日）

□講義1 「現代史としてのユーゴスラヴィア解体——30年後の地平」  
（鈴木健太、神田外語大学）

□講義2 「「歴史の終わり」から「歴史の回帰」へ——国際秩序観の転換と歴史教育」  
（春名展生、本学教員）

□講義3 「第二次世界大戦を終わらせる——ヘルシンキ宣言と歴史の見直し」  
（篠原琢、本学教員）

□報告と質疑 電子出版『世界史セミナー14年間の軌跡』（仮）作成計画に関して  
（吉田ゆり子、本学教員）

□2日目（8月3日、水曜日）

□講義4 「20世紀前半の中国におけるナショナリズム高揚と教科書」  
（倉田明子、本学教員）

□講義5 「戦争を教える——日本兵とドイツ兵の戦争経験比較」  
（小野寺拓也、本学教員）

□講義6 「朝鮮戦争をいかに教えるか」  
（藤井豪、本学教員）

□講義7 「「歴史総合」とラテンアメリカ史——何を学ぶか、どう学ぶか」  
（鈴木茂、名古屋外国語大学）